

学校教育目標	☆かがやくひとみ さわやかえがお まごころいっぱい かさまの子				
	○ともに学ぶ楽しさを実感し、多様な考えから自己の考えを深め、意欲的に学び続けようとする子を育てます。(知) ○身近な自然や人との交流を通して、共感する心を大切にし、よいと思ったことを進んで行おうとする子を育てます。(徳) ○体を動かす楽しさを知り、自他の心身を大切にする心をもち、自ら健やかな体づくりに取り組もうとする子を育てます(体) ○地域の人やものに興味・関心をもちながら進んでかかわり、社会のために自分ができることを考えて行動する子を				
学校概要	創立 40 周年	学校長 黒田由希子	副校長 福井 伸人	3 学期制	一般学級: 18 個別支援学級: 3(知1・情2)
児童生徒数: 579 人 主な関係校: 西本郷中学校・西本郷小学校					

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
	西本郷中学校 笠間小学校 西本郷小学校	小中9年間でコミュニケーション能力を高め「まち」で生きる子どもたちを育てます。 ・「特別支援の充実」をブロック授業研のテーマとして設定し、各教科等域においてテーマを意識した授業を展開する。(ブロックで年2回実施) ・児童生徒の交流日や行事の交流を通して、小中間の連携を図る。 ・授業参観や各種会議を通して、育てる資質・能力、目指す子ども像や教師像を共有する。
<問題発見・課題解決をする能力> <自分づくりに関する力>		

中期取組目標	チーム笠間のでめざす学校づくり～「信頼」「協力」「挑戦」で子どもが主役の学校をつくります～
	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が自分の考えをもち、互いの意見をつなげ合う授業を推進し、主体的に学ぼうとする意欲を育てます。 人とのかかわりを通して、相手意識や思いやりの心を育てます。 まちの「人」や「もの」と関わる学習を大切に、豊かな体験を通してまちを愛する子を育てます。 教職員が「チーム笠間」として連携し、信頼される学校づくりを目指します。

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく知	①生活科・社会科の指導を中心として、対話的な学びを重視し、子どもが学習問題に対して協働的に問題解決に向かう姿を引き出す手立てを考えていく。②作成した教育課程の検討を続けながら、資料の精選、人との出会いを大切にすることで、子どもの興味・関心を引き出し、主体的に学ぼうとする意欲を引き出す。
豊かな心	①「特別の教科道徳」を中心に、ふれあいや体験活動を通して、自他を大切にする思いやりの心情を育てる。全学級1回は授業公開を行い、指導力の向上を図る。②ドレミファコンサートや音楽朝会、たてわり活動、特別合唱クラブの取り組みなどを通して、互いのよさを認め合ったり、子どもの情操を高めます。
健やかな体	①体力向上一校一実践運動で、縄跳びに取り組み持久力と俊敏性、器用さを高める。「チャレンジタイム」として学級で長縄に取り組んだり、学習カードを配布し個人で短縄に取り組んだりして、体力の向上を図る。②学校保健委員会の活動を通して、横浜市体育協会との連携を図り、子ども一人ひとりの健康への関心を高める。
特別支援教育	①特別な支援を必要としている児童の個別の教育支援計画や指導計画を作成するとともに、情報共有の場を設け、全職員で協働して支援に取り組む。特に児童支援専任と特別支援コーディネーターが中心となって調整する。②生活・学習環境を整え、ユニバーサルデザイン化を進め、誰もが安心して学べる環境づくりを進める。③支援が必要な児童には、個別の支援計画を学年・保護者と連携しながら
児童・生徒指導	①「笠間スタンダード」をもとに指導の一貫性を図るとともに、専任と学年を中心とした児童支援体制のもと、児童一人ひとりが出すサインを見逃さないように情報共有を図る。②Y-P研修を行い、一人ひとりの実態を捉えるとともに、「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を授業や行事の場面で活用し、受容的な学校、学級風土をつくる。
地域連携	①保護者・地域に、教育活動について積極的に発信し、学校教育への理解をより深める。(説明会、授業参観、懇談会、家庭訪問、教育相談活動、学校・学年だよりの工夫、学級だよりの発行、HPでの発信・活用等)②地域コーディネーターと連携し、地域の教材開発や人材発掘を通して、まちの教育力による子どもの育成を推進する。③学校運営協議会、地域学校協働本部を設置し、保護者・地域
幼稚園・保育園との連携・協力の連携	①幼稚園・保育園の学びを生かしたスタートカリキュラムや授業展開を行う。特に、幼稚園・保育園の表現領域と小学校の音楽科、図画工作科とのなめらかな接続を図る。②小学校1年生と幼稚園児・保育園児の交流や5年生と年長児の交流を通して企画力や実践力をつけたり、次年度の新入生が安心して入学できるようにする。
	b8
いじめへの対応	①誰もが安心して参加でき、自尊感情を高める授業づくり・集団づくりを進める。②進級時に学級編制会議を実施し、組織的に情報共有を行う。③「いじめ防止対策委員会」を定期的に開催し、組織的な対応を徹底し、職員で共有することで、同じ視点で指導できるようにする。④児童が主体的にいじめの未然防止の視点を取り組む活動を推進する。
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチームを組織し、ミドルリーダーの助言のもと月1回の研修を行う。②週に1回教務会を開き、主幹教諭・教務部が学校全体を見通し、学校経営に積極的に関わっていく場としていく。③グループウェア「ミライム」、業務の外部委託や「電子申請システム」等を活用し、業務精選を図り、働き方改革につなげる。